

みずしま

「水島と万葉集」

日本三大急流の一つとして有名な「球磨川」くまがわは標高1700メートルを超える九州山地から流れだし熊本県南部の中心的な都市である八代市内から九州本土と天草諸島に囲まれた八代海に注ぐ、全長115キロメートルの熊本県最大の河川である。

・この球磨川（支流・南川）の河口左岸の堤防沿いに八代海に突き出た形で地名伝説にて「水島」と伝えられる小島（東西50m、南北30m）がある。

（写生地）長年の球磨川の土砂流出と近世来つづく埋立で、陸地に近くなった石灰岩の小島となったが、昔は八代海上に浮かぶ島であったと伝えられる「水島」

（所在地―八代市水島町）を描く。

（杏花）



・この「水島」は日本書紀の景行天皇18年4月の条に「景行天皇（第12代）が海路からこの芦北（現在の熊本県八代市）の小島に立ち寄ってお食事を召された。そのとき、たまたま島の中に水がないため侍臣が神に祈るとたちまち崖のほとりから清水が湧き出したので、それを酌んで天皇に差し上げることができた。そこで、その島を〈水島〉と名付けられた。」と記述されている。水島はこの球磨川河口左岸部の小島であることが通説となっている。

・万葉集には長田王が官命で筑紫に派遣されたときに、かねて聞いていた景行天皇の不思議な伝説のある「水島」へ「野坂の浦」から渡る時の歌二首が収められている。

1) 聞きしごと まこと尊く 奇すしくも

かむ お

神さび居るか これの水島

卷三―245 作者…長田 王

(解説) かねて話にきいていたとおり、ほんとうに尊く、不思議にも神々しくみえることだよ。この地、水島は。

あしきた のさか ふなで

2) 芦北の 野坂の浦ゆ 船出して

ゆ

水島に行かむ 波立つなゆめ

卷三―246

(解説) 芦北の野坂の浦から船出して、水島をに渡ろうと思う。波よ、立ってくれ

るなよ、決して。

・ 船旅の無事を言葉にだしてみずから祈願した歌であるという。

・ 「芦北の野坂の浦」

野坂の浦は熊本県葦北郡の八代海に面した海岸で参考地が二ヶ所ある。一つは水島から海岸部を南へ15キロ離れている葦北郡「田浦」と、25キロ離れている同町「佐敷」である。芦北地方は。いわゆるリアス式海岸で、古い時代には肥前、薩摩を旅する人々は峠道の多い陸路よりも海路を選んだものと考えられることから、長田王は2箇所の参考地のいずれかの地から「水島」へわたったものと推定される。

(参考文献) 新潮日本古典集成「萬葉集」 林田正男著「万葉の歌」日本の名著「日本書紀」等

